

第3回 衛星開発・実証小委員会
議事要旨

1 日 時

令和3年3月9日（火）10:00～12:20

2 場 所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3 出席者

(1) 委 員

中須賀座長、片岡座長代理、白坂委員、鈴木委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、岡村審議官、吉田参事官、中里参事官
文部科学省大臣官房 長野審議官、福井宇宙開発利用課長

(3) 関係省庁

総務省国際戦略局宇宙通信政策課長	住友 貴広
経済産業省製造産業局宇宙産業室長	是永 基樹
気象庁情報基盤部気象衛星課長	横田 寛伸

4 議事要旨（○：意見等）

関係省庁から「衛星開発・実証に関する取組状況について」、資料1～3に基づいて説明が行われた。質疑応答について、以下の意見があった。

<総務省>

○光通信は大変重要な技術であるが、誰が社会実装を担っていくのか、研究開発段階から、オペレーターやユーザーを巻き込んでいく必要。開発の成功を目的とするのではなく、商品としてどう売るかまで描いて開発に取り組む必要がある。

○実証はとにかくスピード感が重要。時間をかけて完成度を追求するのではなく、安く、速く作って、試しながら性能を上げていく考え方で取り組む必要がある。

○量子暗号は安全保障上も大変ニーズが高い。国際的な競争も激しくなるので、しっかり取り組む必要。どのようなアプリケーションになるのか、見据えて取り組む必要。

○地上も含めた通信ネットワーク全体の将来像の中で、衛星通信がどのような役割を担っていくのかを描き、そこからバックキャストして必要な技術開発に取り組むというアプローチで考えることが重要。

<経産省>

○小型衛星の量産化を世界と戦える水準でどう実現するか。バスについては、設計、製造プロセスを標準化して、量産の仕組みを、スピード感を持って構築していく必要がある。

○コンポーネントについては、共通化により、できる限り低コスト化を図ることが重要。

また、サプライチェーンをしっかりと分析した上で、国産化を進める部分と、海外との連携を考える部分を戦略的に検討する必要。

○SERVIS プロジェクトについては、政府の実証衛星を速いサイクルで打ち上げて、民間に多くの実証機会を提供していくことが重要。

○6Uは実証機会を数多く提供することで、民間の創意工夫を促していくことが重要となる。100kg 級については、衛星データの利用をアンカーテナントも含めてセットで考えることが重要。

○データ利用については、ユーザーが実際にどう使えるのか、PMF（プロダクト・マーケット・フィッティング）を進めていく必要。

<国交省>

○ひまわりについては、気象観測だけでなく、圧倒的な時間分解能を活かして、防災利用や海洋監視等にも活用できる可能性がある。

○今後の気象観測の体制については、静止衛星だけでなく、極軌道や、低軌道の小型コンステレーションの活用など、他省庁との連携も含めて様々なバリエーションを検討していくことも考えられる。

○また、海外に依存しているセンサーの国産化や、衛星のライフサイクルやコストの縮減も検討すべき。